

「菩提寺コミュニティセンター」の造成工事が終わり、7月からはいよいよ本体工事に着手し、平成27年4月には「新・菩提寺まちづくりセンター」として供用開始される予定です。

この施設の中心に「菩提寺歴史文化資料室」をオープンすることが決まっておりますが、文化芸術委員会では、昨年10月に「菩提寺歴史文化資料室・運営協議会」を設け、今日まで10回の会合を重ねて、設備や備品等ハード部分の検討案を「コミセン建設会議」へ提案してまいりました。

今年度は、資料室に飾る展示品の準備や運営管理体制の整備等ソフト部分の作業に取りかかります。そのため、関係者へスタートダッシュをかけるネライと地域の人たちに「歴史文化資料室」の概要を知ってもらい、地域と一体となって《みんなに喜ばれ、活用される資料室》を目指して、6月29日（日）にスタートイベントを開催します。



私たちは、自分たちの住む地域とその歴史を知り、故郷を大切に思う心で、人づくり・地域づくりをサポートするために、菩提寺歴史文化資料室を開設します。

- 1) 菩提寺学区7区が一つになって《古い菩提寺と新しい菩提寺の融合》により、菩提寺地域のまちづくりを発展させようとした、「菩提寺まちづくり協議会」を設立した原点を大切にします。そのために、「歴史文化資料室」を<まちづくり>のシンボルにしたいと考えています。
- 2) 菩提寺を活気あるまちにするには、菩提寺地域の人の交流が活発でなければなりません。菩提寺地域には、国や県の文化財調査が殆ど手つかずの状態、多くの埋蔵文化財が眠っています。これらの財産を掘り起こし、故郷の歴史・文化を地域ブランドに育成し、新たな魅力を創造したいと思えます。
- 3) 菩提寺地域に、手作りの歴史博物館的な施設をつくって、地元で管理することにより、地域の情報発信を行います。大人だけでなく、子どもたちが本物の歴史文化遺産にふれることによって、故郷への誇りと愛着が増すことを願っています。
- 4) 小学生の頃から地域の歴史に触れ、郷土の偉大な先駆者の業績を知り、地域を好きになって、菩提寺に生まれたことに誇りを持つ若者を多く育てたいものです。地域に魅力と誇りを持つ人は、自分の力を地域に生かそうと夢を持って大人に成長し、地域に貢献します。そうして、地域が豊かになっていくことを願っているのです。

〈菩提寺歴史文化資料室 運営協議会〉

編集後記

広報部長 笹谷 康之

4月14日の菩提寺小学校、菩提寺北小学校です。ピンクのサクラと、赤紫のコバノミツバツツジが満開です。

新体制のまち協を、よろしくお願いたします。



まち協だより 24号

平成26年6月25日

事務局 菩提寺まちづくりセンター内 Tel 0748-60-1381

発行責任者 事務局長 松本 高治

平成26年度の6つの指針

会長 山口 道夫

平素より、学区住民の方々より菩提寺まちづくり協議会の活動に対しまして深いご理解とご協力を頂き、お礼申し上げます。今年4月1日に、湖南省まちづくり協議会条例が制定され、我々の活動が公的機関として認められ市民権を得ることができましたことを、大変うれしく思っております。平成26年度の菩提寺まちづくり協議会のスタートにあたり、次の6点を指針として挙げました。

1. 菩提寺まちづくり協議会5ヶ年計画の推進

昨年11月から5ヶ年計画の検討を行い、5年後のビジョン、あるべき姿を設定し、それに到達するための地域課題、これを解決するための基本行動プラン、各委員会の事業内容とそれを裏付ける予算と人員体制を策定しました。平成26年度は5ヶ年計画のスタートに当たるために、各事業内容の積み残しがないようにPDCA（計画・実施・点検・見直し）をしっかりと回します。

2. 菩提寺まちづくりセンター指定管理の推進

既に1年前に、石部南まちづくり協議会で先行して指定管理で運営しています。平成27年3月から各まち協で指定管理を導入する予定なので、菩提寺まちづくり協議会も今後は行政と連携して実施に向けての環境整備を図ります。

3. (仮称)菩提寺コミュニティセンター建設のスケジュールの徹底

昨年も指針に掲げこの1年間行政と一体となり、コミセン建設会議で基本設計に関して鋭意取り組んできました。今年度は詳細設計に入るため、平成27年3月の完成に向けて詳細の詰めとスケジュール管理を徹底します。

4. 湖南省地域防災計画とリンクした菩提寺まちづくり協議会の防災体制の整備



「湖南省地域防災計画」が7年ぶりに改訂されました。菩提寺まちづくり協議会の福祉・安全委員会の5ヶ年計画では「避難所が地域で開設できる体制づくり」を位置付け、新たな湖南省防災計画とリンクした体制を整備します。

5. B・B大作戦(アドベンチャー広場)事業完結

「きらめき湖南地域活性化事業」として地域の特性を活かしたまちづくりを推進するために、滋賀県立大学と協働して、景観面や防犯面から懸念していた竹林を活用しています。昨年はアドベンチャー広場づくりの場所にバンブーハウスを建築して、その竣工式を取り行いました。当日はNHKテレビ、KBSテレビ、Y新聞社とK新聞社の取材報道、その後もH新聞社の取材報道、滋賀県建築業協会の取材と専門誌での紹介などがありました。菩提寺まち協が一躍脚光を浴び、その反響の大きさに深い感動を受けました。今年度はB・B大作戦の総仕上げと位置づけ、当初計画の展望台、テラス、ベンチそしてバンブーハウス2号棟を完成して、「地元住民の憩いの場」「コミュニケーションを深める場」として活用して貰います。

6. 小学校の土曜事業の積極的支援

この事業は文科省が提唱する「地域で子供の教育の一端を担う」ことです。菩提寺まちづくり協議会としても、この事業の成功が得られるように、今後具体的に検討される「土曜事業実行委員会」を通じて積極的に支援していきます。

(平成26年度菩提寺まちづくり協議会通常総会での会長挨拶より)



地域活性化委員会 委員長 保田 芳利

幼稚園児・小学生が竹の子掘り

4月22日、先生3名が引率のもと、菩提寺幼稚園児26名が竹林に、竹の子掘りの体験に来園されました。当日は地域活性化委員会のメンバー9名が応援に駆け付け、一緒に竹の子掘りを楽しみました。

まず、竹のトンネルを通り、スクリーン広場に出て、スケールの大きさにびっくりしていました。そこで、3名が1組になり、竹の子を順次掘り出し、沢山の竹の子が収穫されました。地上に頭を少ししか出していないのに、大きな竹の子が出てきて、歓声をあげていました。そして、バンブーハウスで休憩して、記念撮影を行い、竹の子を土産に幼稚園に戻りました。

4月26日には菩提寺北小学校3年生50名が竹の子掘りを体験しました。各自スコップを持参して、思い思いに竹の子掘りを行いました。

最後はまち協役員が手伝い、沢山の竹の子を掘り出しました。竹の子は竹とすごい太い根が続いていることがわかり、勉強になったと思われます。



舞台・遊歩道のブリッジを製作

昨年度は竹のトンネルとスクリーン広場を滋賀県立大学生が製作しました。引き続き5月16日から19日までの4日間、スクリーン広場に舞台の設置と遊歩道に竹のブリッジを製作しました。まだ、いずれも未完成ですので、開放はしていません。ふれあいファーム開園に合わせて開放する予定ですので、楽しみにしてください。



『B・B 大作戦パートIII』最優秀賞受賞

4月19日市民学習センターで湖南省7つのまちづくり協議会から「きらめき湖南 地域活性化推進事業」のプレゼンテーションが200名を超える参加者の中で行われました。ここで菩提寺まちづくり協議会が推進して、今年度も取組提案した『B・B 大作戦パートIII(アドベンチャー広場整備事業)』が審査の結果、事業採択され、最優秀賞を受賞しました。菩提寺まちづくり協議会の取組が評価されたことを喜んでます。なお、この事業は今年度を総仕上げの年にする予定です。審査員の先生から「竹林の荒廃をプラスに変えていく、ふれあいファームの実現に期待している」や「新たなアドベンチャー広場を計画され子どもたちの関わりを強められることに期待する」などのコメントをいただきました。



湖南省菩提寺竹林未来map

